

### 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4091600074
法人名	株式会社 楓
事業所名	グループホーム 市の上
所在地	福岡県久留米市合川町1754-1 (電話) 0942-32-1058

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成19年12月7日	評価確定日	平成20年1月16日

【情報提供票より】 (平成19年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 5月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	21 人 常勤 18人, 非常勤 3人, 常勤換算 0.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2階建ての ~ 全 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	108,930~111,000 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷金	有( 円) (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000 円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (平成19年4月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	8 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名		
要介護3	2 名	要介護4	6 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	59 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ふじもと内科・立山歯科・新古賀病院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鉄筋コンクリート2階建ての事業所である。住宅地にありながら近隣には公園、スーパー、ファミリーレストラン等があり、散歩や買い物に便利な環境にある。管理者・職員共に一丸となって、事業所独自の理念「であい・ふれあい・みとめあい」のもと、住み慣れた地域の中で安心して笑顔を増やせるようなケアに努力している。また利用者一人ひとりが力を発揮できるよう、できることから始め、利用者それぞれに応じた支援を行っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善課題については人権に関する学習会の実施及び資料を整備し、衛生管理マニュアル・チェック表等の実践等、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員は評価の意義を理解し、各リーダーが全職員の意見を聴取し、数回の会議を行いながら自己評価に取り組み、運営者が総括している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期的に運営推進会議を開催している。事業所から利用者の状況、運営状況、外部評価等の報告、委員から質問や意見、要望等を受け、事業所が地域の避難場所になる等、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)</p> <p>2ヶ月に1回、家族会を開催している。積極的に家族等の意見、不満、苦情を聴き、職員会議で話し合っている。ターミナルケアについて本人や家族の意向に基づいて同意書を作成する等、それらを運営に反映させている。また、議事録を作成している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入している。事業所のイベント開催時は自治会長を通して近隣の子どもたちの参加があり、地域行事には職員及び利用者が参加している。自治会の依頼で、地域の災害時の避難場所として事業所が位置付けられている。また、こども110番に参加している。</p>

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との交流等で人間的なふれあいを大切にしながら、安心した生活環境の中で利用者が心穏やかな生活を支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、出勤時に理念を確認している。理念の学習会や言葉で情報を集めたり、利用者の出来る事探しや記録等で、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支え合い</b>					
3	5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。事業所のイベント開催時は自治会長を通して近隣の子供たちの参加があり、地域行事には職員及び利用者が参加している。自治会の依頼で、地域の災害時の避難場所として事業所が位置づけられている。また、こども110番に参加している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員は評価の意義を理解し、各リーダーが全職員の意見を聴取し、数回の会議をもちながら自己評価に取り組み、運営者が総まとめをしている。前回評価での改善課題については人権に関する学習会の実施及び資料を整備し、衛生管理マニュアル・チェック表等の実践等、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催している。事業所から利用者の状況、運営状況、外部評価等の報告、委員から質問や意見、要望を受け、事業所が地域の避難場所になる等、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の担当窓口や地域包括支援センターにパンフレットや事業所便りを持参しながら、事業所の考え方や運営方法、ケアサービスの取り組み等を報告している。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	全職員は、月1回の内部研修で制度に関して学習し、周知している。また、利用者・家族・家族会へ、入居時及び折に触れて制度に関して説明している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回発行の事業所便りと併せて、担当職員作成の便りを家族等へ郵送している。家族等の来訪時にも暮らしぶり・健康状態を報告し、緊急時は電話で状況報告している。金銭管理については、月1回、領収書の原本を送付し、利用者一人ひとりの出納帳を作成している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回、家族会を開催している。積極的に家族等の意見、不満、苦情を聴き、職員会議で話し合っている。ターミナルケアについて本人や家族の意向に基づいて同意書を作成する等、それらを運営に反映させている。また、議事録を作成している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、全職員が全利用者の馴染みとなるよう、日常的にユニット間での交流がある。離職する際は十分な引継ぎ期間を設け、全利用者写真を撮り、思い出作りをしている。月1回発行の事業所便りにて家族等へ報告している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集・採用にあたっては、運営者・管理者・職員の参加で面接にあたり、職員の意見を大切に、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。事業所で働く職員にも、社会参加や自己実現の権利が保証されるよう配慮している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権に関するテキストを整備し、講師を招いて勉強会を実施している。また、一部職員が外部研修を受講し、他の職員へ伝達研修をしている。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は、日常的に学ぶ事を推進し、各職員に応じた段階的・計画的な学びの機会の確保に努めている。また、職員教育担当者を配置し、定期的な内部研修の機会を設けている。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域密着型サービス同業者ネットワークに加入している。管理者や職員は地域の同業者と職員研修をして交流を図り、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
<b>【II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人・家族が事業所を見学してもらい、他の利用者、職員、場の雰囲気に馴染めるよう三者で意見交換しながら、安心と納得を大切に利用に至っている。職員が自宅訪問する場合もある。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員と利用者は、調理、片付け等、様々な場面で共に協働しながら、感謝の気持ちを表せる関係性を築いている。利用者は、夜勤の職員に慰労の言葉をかけたり、おはぎ作りの指導や掲示板に貼る献立表を書く等、得意分野で力を発揮してもらいながら、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は日々の関わりの中で、利用者の言葉や表情、行動から、希望や意向の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者には、家族から情報を得て、本人本位に検討している。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族の意向を尊重しながら、職員の意見や気づき、アイデアを反映させ、個別具体的な介護計画を作成している。本人・家族へ説明し、同意のサインや押印をもらっている。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヵ月・6ヶ月に1回モニタリングをし、介護計画の実施効果を検討して見直している。状態変化時には随時見直し、現状に即した新たな計画を作成している。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者が入院した際は、医療関係者や家族と連携を図り、早期退院に取り組んでいる。通院の送迎は、家族が付き添えない場合は、職員が対応している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切に、今までのかかりつけ医や事業所の協力医での24時間体制の受診を支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について方針がある。入居時に本人・家族に説明し、確認書をもって折りに触れて本人家族の意向を聞きながら、かかりつけ医・職員で話し合い、随時家族等へ説明を行い、全員で方針を共有している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員は、採用時及び日常的にプライバシーの確保について学習して意識化を図り、言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いに配慮している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりのペースや体調に配慮しながら、本人の希望にそって個別支援をしている。晩酌を好む人・安全な場所での喫煙・買い物等、柔軟に対応している。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は、一緒に準備や片付けをし、同じものを同じテーブルで食べている。職員は利用者をさりげなく介助をしつつ、会話を楽しみながら、和やかな雰囲気食卓を囲んでいる。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、利用者の希望を確認し、体調等に配慮して入浴支援をしている。入浴拒否する利用者に対しては、職員が入浴券を作成して利用者へ渡す等工夫して、利用者が入浴を楽しめるよう支援をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の生活歴や力を把握し、食事作り・畑仕事・掃除・書道・カラオケ等、一人ひとりに役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や利用者の体調、希望に応じて、毎日近隣の公園まで散歩している。また、誕生日に外食を楽しんだり、家族同伴で日帰り温泉ドライブをする等、戸外に出かけられるよう支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室や玄関は施錠していない。職員は利用者の外出傾向を把握し、職員間で見守りと連携を図っている。運営推進会議を通じて、近隣へ声かけや見守りを依頼し、近隣のスーパーにも協力をお願いしている。		
30	73	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年4回、消防署と合同で防災訓練を行っている。マニュアルを作成し、職員は避難訓練・避難場所を熟知している。運営推進会議を通して、地域住民に避難訓練への参加を呼びかけている。携帯トイレ・毛布等の備品を準備している。	○	非常用食料も準備してほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事摂取量及び水分摂取量は全利用者分を記録し、その人に合った食事を配膳している。給食委員(職員)が利用者の嗜好を調査し、日曜日には楽しみ献立を取り入れる等、献立の作成を工夫している。また、年1回、かかりつけ医や栄養士に、栄養バランスやカロリー等の専門的なアドバイスやチェックを受けている。</p>		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>広くて明るいホールには季節の花を飾り、利用者と職員合作の大きな布製月カレンダーを掛け、ソファや椅子を設置し、畳の間を設けている。また、小さな図書コーナーを設け、共用空間を楽しめるよう工夫している。職員の声・光・温度・BGMの音量は適切で、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室は、家族写真・ソファ・人形・ぬいぐるみ・絵画・植木鉢・テレビ・位牌等、使い慣れた馴染みの物を持ち込み、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		

※  は、重点項目。